

保健室だより

平成 21 年 6 月発行
大正大学保健室

早めの予防で安心。受けよう！ インフルエンザの予防接種

流行前のワクチン接種は予防の有効手段です。インフルエンザウイルスの感染を防止したり、発症や重症化を防ぐことが期待できます。しかし、毎年同じ種類のインフルエンザウイルスが流行するとは限らず、ワクチンの持続効果も約 5、6 ヶ月間であるため、毎年作られる“新しいワクチン接種”を受けることが大切です。

インフルエンザの基礎知識

インフルエンザとは

インフルエンザとは、急な発熱を特徴とする呼吸器感染症です。インフルエンザウイルスを原因ウイルスとし、1～5 日（平均 3 日）の潜伏期の後に、突然 38 以上の高熱が出現し、頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感などの全身症状に加えて、咽頭痛・咳・鼻汁などの風邪様症状が出現します。ほとんどの場合、約 1 週間で軽快しますが、重症化すると肺炎、脳炎・脳症などを起こすこともあります。



原因（ウイルス）は

インフルエンザウイルスには A 型・B 型・C 型があり、現在ヒトの間で流行している型は、A 型のソ連型（H1N1 亜型）・香港型（H3N2 亜型）・B 型の 3 タイプです。C 型もヒトに感染しますが流行は起こりにくいとされています。

感染経路は

主な感染経路は、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むこと（飛沫感染）です。また、ウイルスが付着した手を介した感染（接触感染）もあります。

受診はなるべく感染から 2 日以内に

現在、インフルエンザの治療には抗インフルエンザウイルス薬が使われています。発症からおおむね 48 時間以内であれば、インフルエンザウイルスの増殖を抑え、熱を下げ、かかっている期間を短くすることができます。早ければ早いほど効果的です。

予防のポイント

予防のポイントは「予防接種」「咳工チケット」「手洗い・うがいの励行」の 3 つです。



出典：東京都 HP

予防接種は遅くとも 12 月上旬までに

インフルエンザワクチンは接種してから実際に効果を発揮するまでに約 2 週間かかります。ワクチンには 2 回接種と 1 回接種（中学生以上は 1 回でもよい）があり、2 回接種する場合、初回から 1～4 週間あけて接種します。流行期間が 12～3 月ですから、初回は 11 月中旬頃までに、2 回目を行なう場合は遅くとも 12 月上旬までに接種を終えておくとより効果的です。

ワクチン接種のタイムスケジュール



出典：中外製薬 HP

予防接種の注意点は

- インフルエンザのワクチンは普通の風邪に効果はありません
- ワクチン用のウイルスは孵化鶏卵で培養するため、卵などのアレルギー、けいれんの既往症、熱を出している場合などには接種できないことがあります。

医師に相談しましょう！